

学校建設（カンボジア）

小中学校10棟24室完成。着工分を含め建設実績は359棟に。

2017年度建設支援校リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者 (生徒数)	受益者 (教員数)	支援内容						
					校舎		トイレ		机、 椅子	井戸 水タンク	靴箱
棟	室	棟	室								
336	コンボート小学校	コンボンチャム州	327	6	1	2			30		6
337	ロヴィアトーン小学校	クラチエ州	104	6	1	2			50		6
338	サムダエック小学校	バタンバン州	850	18	1	3	1	3	75		9
339	ボー小学校(本校)	クラチエ州	167	7	1	4	1	4	100	1	12
340	ブンブリヤオン小学校	トゥボンクモム州	467	9	1	2	1	3	2	1	6
341	タベン小学校	トゥボンクモム州	93	4	1	2	1	3	50	1	6
342	ソカエチュルム小学校	ブレイベン州	263	6	1	1	1	3	1		3
343	オンクロン小学校	バタンバン州	371	7	1	3	1	4	75	1	9
344	チャントリア中学校	スワイリエン州	230	8	1	3	1	3	3	1	9
345	ボークラット小学校	ブレイベン州	251	8	1	2			50		6
付帯設備	チョムマロウ小学校	トゥボンクモム州	221	7			(1)	(2)		2	
付帯設備	チサランセイ小学校	スワイリエン州	469	19			(1)	(4)		校舎通路補修	
合計(2017年度実績)			3813	105	10	24	7	23	436	7	72
346	ドムレイポオン中学校	ブレイベン州	561	29	1	3	1	3	75	1	9
347	タックラー小学校	バタンバン州	327	6	1	3			75	1	9
付帯設備	マナウ小学校	バタンバン州	436	13			(1)	(4)		1	

* 340、342、344の机・椅子は、日本からのリサイクル品を寄贈しました。よって教師用のみを実績としています。(P. 7参照)

* 付帯設備を支援した3校は既存のトイレを補修しました。これらは実績には加算していません。

* チョムマロウ小学校では、井戸1基、給水タンク1基を支援したため、実績は2としました。

* 346、347は2017年度内着工済の学校。2017年度内未完成のため、実績は2018年度に加算されます。



A サムダエック小学校の仮設校舎



B タベン小学校の老朽校舎に集まる生徒・村人



C オンクロン小学校の校舎、トイレ、給水タンク



D ボー小学校建設現場にて建設業者と話し合う青野氏



E ボランティアによる塗装作業後の校学園校舎

支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき調査を実施し、

- ① 教室の不足（写真A、B）
- ② 校舎の老朽化、又は倒壊の危険（写真A、B、C）
- ③ 小学校全学年の収容不能（写真B、C）
- ④ 移設用地が必要な学校（写真C、D）など、建設の優先度としました。

今年度はカンボジア6州に、小・中学校10棟24室、トイレ7棟23室、給水施設9基を建設し、総受益者は生徒3,813名、教員105名の成果を得ました。これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア20州で347棟（着工済校舎を含む）、ラオス1棟とネパール11棟を加えた総実績は359棟となりました。

また、13校の学校の現況調査も行うなど、今後の事業継続のための可能性を探りました。

写真Eはカンボジア日本友好桜学園内小学校の授業風景。2017年8月にボランティアが内外壁の再塗装を行い、きれいに生まれ変わりました。

●カンボジアにおける校舎建設の実績

2016～2017年度の教育省統計では、公立の小・中学校、高校の数は合計8875校とあり、前年度よりも76校増加しています。その中で、JHPは278校（全学校の約3.1%）の支援に携わっています。

●カンボジアと日本を繋ぐ各種コーディネート

学校建設事業では、贈呈式（8回）、ボランティア活動、交流会（10回）、活動紹介など、年間28回377人を受け入れ、ブランコ建設（3回）、校舎の壁やドア・窓の塗装（7回）などの対応をしました。

プロジェクトの背景

カンボジアの状況は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。小学校の進学率は上昇しているが、不完全校（6年生まで受け入れができない小学校）や教室不足の学校、老朽化が進み危険な校舎を利用している学校は未だに多い。中学生の増加により、教室や教員不足を招いている学校も多い。生徒が過密な環境で学んでいたりと、正規の時間数が学べなかったりなどの弊害も出ている。また、公立幼稚園の数と児童数の増加、都市部での私立学校の増加などの傾向が出ている。

学習環境を維持、向上させるための継続支援



A スラチーニエン小学校への文具・校



B プンプリャオン小学校の授業風景

カンボジアでは、国からの予算が不足しているため、学用品、図書、備品などの購入代、校舎修理代などを十分に賄えません。

2017年度は、新設10校及び既建設校30校に文房具、図書、学校用備品（時計、世界地図、ゴミ箱）、校舎補修・塗装用具などを寄贈しました(写真A)。これらは、子どもたちの学習意欲や自主的な管理の意識を高め、各学校の運営面の向上にも役立っています。(写真C)



C トイレのペンキ塗りをするスラチーニエン小学校の生徒

「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を輸送

2017年7月、江東区の小・中学校から届いた机・椅子のうち、42セットはプレイベン州ソンカエチュルム小学校、80セットはトゥボーンクモム州プンプリャオン小学校(写真B)、120セットはスワイリエン州チャントリア中学校に寄贈しました。

海上輸送のコンテナには、江東区をはじめ全国各地から当会に寄せられた楽器等も積み込み、各種支援に備えることができました。

各種インタビュー

JHPは、子どもたちの学びに欠かせない校舎、衛生施設、学用品、図書、各種備品などをニーズに合わせて支援しています。調査から支援に至るまで、スタッフ自ら現場に入り、支援前の要望や支援後の感想などの声を聞いています。



学校名：モーン小学校
名前：ウン・ソクリン(男)
年齢：41歳
教師経験：18年
校長経験：5年

ゴム農園の作業員としてこの地域に住み始め、その後勉強して教員の資格を得て2000年から契約教師、2007年から正規教師になりました。モーン小学校は3年生までを受け入れている不完全校で、木造トタン造りの小さな校舎しかありません。トタン造りなので、午後は高温になり、雨が降ると、雨音が騒々しく授業ができません。4年生以上は9Km離れた本校に通わなければならない、半数がやめてしまいます。このような田舎に住んでいる人でも、質の高い教育を受ければ良い職を得られること、知識がなければ生活することが難しいことを理解しています。去年は教育の大切さを伝える努力をして、多くの生徒が4年生になっても本校まで通うようになりました。もしこの地域に新校舎をご支援いただければ、4年生でやめてしまった生徒も、学業を再開することができます。また、現在遠くまで通っている4～6年生もこの学校に戻ってくることができます。



大体1週間に2～3回図書館に来て、本を読んだり、勉強したりしています。図書館ではたくさんの情報を得ることができるので、よく利用しています。科学の授業が好きで、将来は医者になりたいです。今年もたくさんの本を寄贈してくださいましてありがとうございます。大切に使います。

学校名：スレイモンコル中学校 名前：ボン・フィ・ティエン
年齢：13歳 学年：中学1年生